

# 第3回望ましい教育環境あり方検討委員会会議録

平成29年1月12日水曜日 午後6時30分から  
九戸村役場 会議室

## 出席者

岩手大学教育学部	教授	田代高章
九戸村議会	総務教育常任委員長	中村國夫
九戸中学校	P T A代表	尾友一雄
戸田小学校	P T A代表	橋本健一
山根小学校	P T A代表	田澤秀行
伊保内小学校	P T A代表	斉藤真一郎
長興寺小学校	P T A代表	中野剛
江刺家小学校	P T A代表	七戸真由美
伊保内保育園	保護者会代表	吉田一幸
九戸中学校	学校評議員代表	上村陸巳
戸田小学校	学校評議員代表	村田勝義
山根小学校	学校評議員代表	舘孝一
伊保内小学校	学校評議員代表	小野寺エネ
江刺家小学校	学校評議員代表	滝谷博
ひめほたるこども園	評議員代表	石川ツエ
九戸中学校	校長	吉田竜二郎
ひめほたるこども園	園長	小井田まき子

## 欠席者

九戸村議会	議長	上村昇
戸田保育園	保護者会代表	觸澤英之
ひめほたるこども園	保護者会代表	市橋謙二
長興寺小学校	学校評議員代表	高崎徳雄
長興寺小学校	校長	門ノ沢邦夫

## 事務局

教育長	漆原一三
教育次長	野辺地実
次長補佐	川原憲彦
指導主事	柳原政輝
主査	岩崎浩美

## 【開会】

委員長

みなさんこんばんは。今年度もよろしくお願ひいたします。それで今日は第3回の委員会ということになりますけども、昨年12月21日、暮れも押し迫ったところで中央教育審議会の答申が出されました。いわゆる子供たちがこれから学ぶ教育内容の基準を示す学習指導要領。その改定に向けてどんどん進んでいる状況です。おそらくは今年の3月に改訂の方針が決まるという状況となっております。改めて、学校教育で学んだことが社会に出て通用するかということ。つまり社会に出て使えるような力を子供たちがしっかりと身につけたうえで学校教育を終えてきているのかどうかということ、ここがすごく問われてきているということが現状です。そのことをめぐって第2回の委員会では私から報告もさせていただきました。委員の皆様方にはそれをめぐりながらこの九戸の子供たちに、これからどうゆう力をつけていくことが求められているのか、特に社会に出た時にこれだけの力をせめて大人としてついていって欲しいなというのを皆さん方にも語っていただきました。そのことにつきましては本日の会議でもう一度改めて確認もしていきたいと思っています。なによりも子供たちにとって、望ましい教育環境あるいは学校、そうゆうものをどう作っていくかということで各委員の皆さんから様々なお知恵を頂戴し、この委員会としての結論をまとめる方向でやっていきたいと思っています。遠慮なくご意見をいただきながら生産的な委員会としての結論を導くことが出来るよう私たちも進めていきたいと思っていますので今日もよろしくお願ひいたします。

## 【協議】

委員長

皆さんのお手元の方にあります次第4、今日は2つあります。そのうちの最初の「九戸村の子供たちの将来像」ということで、資料がみなさんお手元の方にあるかと思ひますけれども、カラー刷りの九戸村の子供たちの将来像という一番上に表示されている図式です。この部分を今日はそれぞれの委員からもご意見を頂戴しながら、ある程度まとめていきたいというのが現状です。それから二番目のところは今回の委員会だけではなく次回にまたがる形になろうかと思ひますが、今回議論する子ども達の将来像を踏まえてどのような学習環境、適正規模、学校規模がふさわしいかということについて意見を伺えればと考えております。終了予定時間は一応8時半を予定していますが、この時期非常に寒いですしあまり夜遅くなるのもということですので、少しでも早い時間で終えることができればいいかなと思ひしておりますが、皆さんが十分語りたことはこの場で語っていただきたいと思ひしておりますので、そのあたりはご理解をいただきたいと思ひます。以上の二つの柱で今日は皆さんのご意見を伺います。資料はよろしいですか。まずこのカラー刷りの方ですね、これのイメージを出していただいた方がよろしいかと思ひます。資料ナンバーが右肩のところについていると思ひますけど、資料3-1ですね。それと色刷りのもの。実はこの間委員の皆さんからご意見を頂戴しておりましたが、それを事務局でまとめた資料3-2で、「九戸村の目指す子ども像」という表題がついたものです。この二つを参考いただければと思ひます。よろしいでしょうか。まず資料についてということで、前回みなさんから、口頭でいただいたご意見を赤い文字で示しているということになります。それ以外のところに関しては黒文字で資料の掲示をいただいているところです。どの意見がどなたかということとはとくに示していませんので、

せっかくですからもう一度改めてご覧ください。冒頭資料 3-1 の下の方に「子供につけさせたい力」というのがあると思います。これが前回私の方で報告をした際に提案をさせていただいた力のカテゴリーになります。大きくは四つの柱があって、一つは基本的な力ということで、いわゆる基礎学力にあたる読み書き計算、それから情報社会に対して情報スキルあるいは学習の仕方そのものということで学び方のスキル。あとは健康体力、命、生命尊重というようなものが上がっています。それから二番目は高次の知的能力ということで、まさに学習教科内容の習得を通じて得られるべき力という部分で、思考判断力、その中でもとくに問題解決力というものを挙げています。それから三番目が対人関係形成力、社会的能力ということで、對他者での表現力あるいはコミュニケーション力それから、他者と協力、協力をしていく力、さらには社会参画。これからの町づくり村づくりどう主体的に考えていくかというような力、最後の四番目は人間的自立、生き方。個人の部分にということでレジリエンスといういい方もしますけど、自己調整、自己コントロール、自制心。それから主体的な部分ということで、かなり上位的な側面が強いです。それから自尊心、あるいは自己肯定感というのもこれに関連する部分。それから何よりも自然と触れ合い人と触れ合うことの中から人間的感性という部分につながるとと思います。それから個人としての規範性。そういうものでカテゴライズしましたが、それらが資料 3-2 の方で少し細かく先ほどの四つのカテゴリーを念頭に置きながら、今回事務局で皆さんの意見をまとめ図表にさせていただいております。かなり場面によっては重なる部分もありますので、そう言ったところをご覧くださいながら、もう一度改めて、皆さん方にどんな力が子供たちに求められるかというところを確認していただきたいと思います。特に順番にということではなくて、前回発言いただいた内容も踏まえながら、今の九戸村の子供たち、おそらく委員の皆さんの見、聞き、知る範囲ということになると思いますけども、それでも結構ですので、こういう力をまずつけて欲しいよねというご意見をいただければと思いますが、まずそのあたりから議論を進めていきたいと思います。それで意見をいただきながらこの議題の一番上の多くは「こういう力を九戸村の子供たちにはつけさせたいよね」と将来像として目指す、将来大人になった時にこういう力が欲しいよねというところをキーワードとして、資料 3-1 の一番上の空欄の部分に埋められるようにしたいというのが、今日の委員会での目指すところになります。そこを念頭に置きながら、例えば前回私はお話をしましたけれどもコミュニケーション能力が欲しいよねとか、もう少し世の中と関わる力が欲しいよねとか、あるいは未知なるものに向かっていく問題解決力が欲しいよねとか、そのようなものがあるかなと思いますが、あるいはここで出された赤い文字とか表の中の意見に必ずしも限定しなくても、みなさん自身ではこういう力が欲しいよねというのを率直にお聞かせいただいた方がいいのかなと思っております。順番に指名しないというのは、意見がる方から今回についてはご意見を頂戴することで。それを踏まえながら関連してそう思うということがあればつないでいただいてもいいのかなと思います。以上のような進め方を考えていますがいかがですか。もし意見が出ないということがあれば私の方から個別にお尋ねするかもしれませんが、そうゆうかたちで進めさせていただければと思います。それではいきなりすぐというわけにはいかないと思いますので、1、2分ほど時間をとりますか。見ていただいてそのあと時間をきってそこから聞いていきたいと思います。もう一度去年の 11 月の部分のところと今日の資料 3-1 及び 2 の資料をご覧ください頭の中を整理していただいて、こういう力はやっぱり必要だなというところをご自身の意見としてお持ちいただければと思います。それではちょっと時間をとりたいと思います。48分まで

ということ言うことで切りたいと思います。よろしくをお願いします。

#### 委員長

それではだいたい3分くらいは経過しましたのでいかがでしょうか。まだご覧になっておられる委員の皆さん若干おられるかなと思いますけど、ぜひご意見のある委員の方からご意見頂戴できればと思いますがいかがでしょうか。とくに資料3-2で赤い文字で書かれた部分のご意見いただいた部分ですが、かなり数が多いところは事務局の方でまとめていただいていますけども、項目としては重要度が高いであろうと推定されると思っていただけるとよろしいかと思います。例えば1ページ目の2の「問題解決力」には4つの項目があり、それ以外の4つのポイントもいただいていますし、その次のページのところの8番の協調性も赤文字としては四つのご意見。それ以外にもかなりの多くのご意見をいただいています。それ以外では10番の「社会参画」が、それから3枚目最後のところでは12番の「主体性」。実行力、自立性、リーダーシップということも入っております。そういう所も含めていかがでしょうか。今は大きなカテゴリーで言いましたけど細かい部分でお話いただいて構いません。例えば2枚目の10番のところですけども、ここには村づくり地域づくりという観点もあれば、故郷ふるさとそういうのを大切にす気持ちを持ってほしいという意見もいただきました。そういう所も10番のところのカテゴリーとして入っていますが、郷土を大切に、育みたい心というようなキーワードでも構いませんし、率直な部分でご意見いただきたいと思います。それでは〇〇委員さんお願いします。

#### 委員

そもそも論に戻ってしまうような気がしますが、九戸村の子供たちが九戸村の子供としてどうゆうふう頑張っていて、どうゆう子供になって将来大人になるのかということから考えますと、先ほど先生がおっしゃったようなものがあるのかなと思います。こうゆうことを記すことになるのかなと思います。そこで子供たちが何を根拠にしてこの九戸村で頑張れるのかなという。地域に対する愛情とかいうときに、九戸の何を愛して何を自信として、地方に行った時でも僕は九戸村出身です。村だって言える根拠になるものが何なのかなということも理解していないと進まないのかなという気がしました。じゃあ何があるのって聞かれると九戸政實公や天明天保の大飢饉にあちこちで死者がたくさん出た時もここは出なかったという話が、ほんとかウソかはここでは確認できませんけども、という話を子供たちにも聞かせてあげていますし、そう言ったところを教えればいいのかという気がします。

#### 委員長

ありがとうございます。今〇〇委員さんからは、ふるさと地域の大切さ、ただそこにはやはり一定程度根拠といいますか、子供たちに九戸の良さとか大切さ何を意味しているかの部分を大切にしたいという意見をいただきました。ちょうど3-1の資料の下のところにある、すぐ下のところにあるオレンジ色のふるさと地域学習ということも現れておりますが、まず自分たちの故郷について深く知る、おそらくそういうことが深くかかわってくると思います。これは学校教育の中であらゆる評価領域を通じて、この九戸ってどんな方々がいたのだろう。自伝はどう歴史はどう文化はどう産業はどうだろうということについて徹底的に学ぶということ。それを通して古里に

愛着を持ち古里を大切にしたいという心を育てる。おそらくそうゆうふうな関連付けになるのかなと思います。そのあたり〇〇さんいかがですか。教育内容との絡みもありますけども。そこに関しての根拠という、今ご紹介いただいて九戸政實がという。

#### 委員

まさに教育委員会で一生懸命やっていたら九曜塾の内容がそうなのだろうなと思います。まだ今は始まったばかりですよ。九戸にも塩の道があったとか、まだまだ私たちが知らないことが隠れているのかなとか、もう PTA は卒業しましたが大人の私たちももう一回勉強させていただいてもいいのかなということも感じましたし、もちろん江刺家神楽が山伏神楽の現にあるということから、村の子供たちが一生懸命頑張っていたらいるというのがありますでしょうし、上げればまだまだあると思いますが、もちろん先輩方がもっとたくさん知っていることだと思いますけども。

#### 委員長

ありがとうございます。今〇〇委員さんがおっしゃったことに関連付けてということでもかまいませんし、改めてふるさと九戸村について子供たちがどれくらい知っているだろうという、それは良さのこともあれば課題性を抱えたこともあるかと思えますし、そうゆうことがベースにならなかなか地域の事を考える子供にはつながっていかないと思いますので貴重なご意見と伺っておりました。もし関連して何かご発言がありましたらこの機会にとと思えますけどもいかがでしょうか。あるいは別の観点、別の側面から私はこうゆう力が必要だとなご意見をいただいてもよろしいかと思えます。

#### 委員

一番基本的な力だと思いますけども、基本的な生活習慣ということで、「命を大切にし、心身ともに健康で思いやりのある人」ということでアンケートを出させていただいたわけですが、今全国的にいじめの問題、そしてそれによって自殺する子どもの問題。若い人たちが若くして命を失うそうゆう状況にあります。そうゆう中でやはり人間としてこの世に生まれてきた以上は命を大切に成長してほしいと、そして健康で明るい元気な子供たちに育ててほしいなという希望的なものがあります。全国的にいじめの問題ですね。数年間言われていますよね。そうゆうことを考えますとやはり命の大切さというのを、子供たちにも理解してもらおうということも大切な事なのかなと。そして健康で健全に成長して欲しいという願いというか、そうゆうことが必要なのかなと思います。

#### 委員長

岩手も例外ではありませんので、この前も福島の子供の事件があったりしましたが、いじめ問題ということの背景に命を絡めて考える必要があるのかなというご意見をいただいております。そのあたりはいわゆる道徳教育と関連もするわけですけど、自分の命だけではなく相手、他社の命もという部分ですよ。自他の命を大切にすることという部分で一つは考える部分が出るのかなと伺っておりました。今の〇〇委員さんのご意見に対して他の委員さん何か関連してという方

おられますか。委員の皆さんから頂戴したご意見に関しては、私の方では候補として挙げていきますので、特に異存がなければ生きているというふうにお考え下さい。とにかく確認させていただきますので。

#### 委員

〇〇さんのいじめに関してですが、九戸村の九戸中学校さんと伊保内小学校さんではいじめの道徳の授業ということで、中学校さんでは 10 年くらい前から一方的に授業をするのではなくて一緒に先生と組み立ててということをやっているのです、県内でも進んでいますよという話はいただいています。ぜひそうゆうのをさらに増やしていただいて村内全ての学校もやっていただけるとありがたいなという思いは強くあります。

#### 委員長

学校全部で取り組んでいるという良さを今後も継承発展させていくという例ですね。確かに大事な事だろうと思います。中学校生の話が出ましたけど〇〇委員さん何かありますか。

#### 委員

九戸村の子供たちの将来像ということで、個人的には将来のイメージを持つときにどこの子供でも共通することはもちろんありますけれども、九戸村だからということがやはり入るだろうということをイメージしてアンケートにもこたえさせていただいたので、最終的には九戸村を愛するとか、九戸村で生まれ育ったことに誇りを持つ子供というのが欲しいと思っていました。先ほど〇〇委員さんの話を聞いて、自分の村の子供だからこそやはり命を大切にしてほしいという願いというのは、根源的なものだなというふうにしてくと、これはどこであっても共通ではあるけど、やはり外すことの出来ないものだろうということを感じるので、多岐にわたるものを絞っていくのは難しいと思いながら聞かせていただきました。個人的な郷土愛というものと、九戸村を愛する九戸村で生まれ育ってよかったという子供にしていきたいと思いますし、先ほど〇〇委員さんがおっしゃったように、その根拠というのはここではあげきれないと思いますけども発掘し続けるのも必要だと思います。その一方で成長して必ずしも九戸村で生活する人ばかりではないでしょうから、村であっても国内外を問わずどこで暮らしていても通用するような力を身につけて欲しいなと思います。

#### 委員長

九戸村の子供たちにとっての将来像ですから、やはり郷土というものを抜きにして語れないというのは確かにそうだと思います。学校教育もそうゆうことを含めての様々な取り組みが実践事例としても紹介されていると思います。岩手の先人教育というよりも、九戸村としての先人はどうゆう者なのだというかんに意識するのも大切だと思います。もし何かまた関連してご意見があればお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。一応理想としては全員発言を考えていますが、強制する物ではありませんので関連するところで発言したい時にいただければと思いますが、〇〇委員さんお願いします。

## 委員

ちょっと観点が変わってくると思いますが、委員長さんのご挨拶の中で、社会に出て通用するかどうかの話が出たわけですけども、これが一番の基本的な事だと思いますが、ただ小中高また大学も出ていく中で教育の中で、いかに身につけられるのかということに尽きるのかなと思いますが、まず学習環境ということになると思いますが、今日ちょっと気になりましたが、テレビの放送があって子供の貧困がすごく多いという。なんか300万にも。300万人で、その300万人がこどもの1/6だと。6人に1人は貧困状態だと。まずそういう中で望ましい教育環境というのになりますと、ちょっとその辺これとまた違うような、方向性が違うというような感じを受けたわけですけど、テレビを見て気になったのです。どうゆう所が貧困なのか実際にはわからないですけども、テレビの中では最低限の衣食住を満たせずに生きていくこと。子どもが厳しい状態ということテレビで話をしていましたね。まずそういう子供が6人に1人はいる。九戸の子供達でそういう環境の中で教育を受けているかたが何人くらいいるのかなというのが気になりましたが。

## 委員長

なかなか難しい部分で即答するのが厳しいと思いますが。

## 事務局

調査結果の6分の1が九戸村の子供に当てはまるかどうかということとはわからないところもありますが、基本的な生活習慣が身につけている子供さんは他と比べて九戸村は非常に多いかと思えます。基本的な生活習慣を身につけていることは、朝食を食べて、きちんと家族に見送られて、帰ったときには家族がいて、暖かくむかえられて、夕食もきちんと食べられるといかたちのご家庭の子供さんは、私なりに多いのではないかなと、ただそうでない子供もいると思います。

## 委員

早速戸田小学校に電話してこのことについて話をしたら、数字まではわからないな、教育長から聞いてください。

## 委員長

なかなか具体的な数値でというふうにはなりにくいと思いますが、たださっきおっしゃっていただいた基本的な生活習慣のですね。子供にとっての生存権保障という部分ですね。家庭環境に影響しているところありますので、まずは充実した家庭環境をベースにしながらすべての子供に基本的な生活習慣を身につける。これは別に九戸村ではなくても全国的には共通項になると思います。ただそうは言っても現実問題、九戸村では少ないとはいえやはり家庭環境が厳しい子供たちもいたりする。そういう子供たちをどう学校という場で少しでもバックアップできる場があるのであればフォローもしたいし、そういう所を支えられる地域でもあってほしいと思いますし、基本的な生活習慣の確立という部分はある意味九戸村の子供たちにとっても、大事なテーマになってくると思います。この辺り学校現場から見て〇〇委員さんいかがですか。

## 委員

おそらく報道で言っている貧困の中には無戸籍の子供ということで、役場で生まれたという登録になっていないけど実はちゃんと育てているお子さんがいて、その子達は無戸籍だから小学校にも入学しないというお子さんが全国に入るということもその1/6にはいると思います。そうゆう意味ではないと思いますけど、万が一村内にいたら把握できていないということで、ただ民生委員さんやいろんな方々が各ご家庭の状況を分かっていると思うので、おそらく九戸村では無戸籍のままいる子供はいのかなと思いますけど。それから貧困という部分で言うと、小中学校の義務教育についてはそれぞれの経済状況で苦労されているご家庭もありますけど、基本的には集金を収めていただいて給食もきちんと全員が食べて、基本的な生活習慣が確立できている状況だと小中通してとらえております。一方で義務教育を終えて、高校以上の高等教育を受ける代になりますと義務ではないのですが、現在は無償化に近い状態で高校の授業料は払わなくていい状態だろうけれども、それ以外に高校以上はいろんなお金がかかるので、その学費を十分に払うことが出来ない場合に奨学金を借りたけれども返せなくなるとか、例えば親元を離れて高校、短大、大学に行った後に、奨学金だけでは食べていけなくてアルバイトをしなければならなくて、アルバイトの方が大変で勉強が出来なくなるという状況があるというので、せっかく大学に入ったのに卒業できずに生活苦になっているお子さんとか、若者が多いというニュースなのではないのかなと思っているので、現在の九戸村の義務教育範囲ではおそらく心配な状況ではないのではないかととらえています。

#### 委員長

九戸村の子供たちからすれば充実しているとできるので、九戸村の子どもたちの将来像ということで、キーワードをピックアップする際には、むしろ基本的な生活習慣は充実しているので、優先度から言うとあえて挙げる必要がなくて他にももっと大事な部分があるというふうにとらえてもいいのかなと思いますし、そのあたり委員の皆さん何かあればと思いますが。

#### 委員

奨学金の話も出ましたが、なんか半分以上が借りていて、大学を卒業してから返すのに30年も40年もかかる。だから貧困からもそれを返すことによって抜けきれないというインタビューもありました。もしそうゆう子供がいるのであれば、なんぼがんばれよといってもエンジンがかからないと思う。あと何かをしようとする気持ちも持てないと話の中で出ていましたので、九戸村にそうゆう子供がいないのであれば良いけれども、小学校の校長先生は九戸村の子供はどちらかという恵まれているような気がしますよという話はしていましたけど気になっていました。

#### 委員長

そのあたりのところ九戸村では、大きな課題にはなっていないというふうに理解していただいているのかなと思います。他にもっともっと優先度の高い九戸村の子供たちとして、こうゆう育ちをしてほしい、こうゆう力が欲しいよねというのがあると思いますが、その他に関連してのご意見いかがでしょうか。

#### 委員



九曜塾の話が出ましたけれども、今年度2年目でもっと参加者が多いとすごくいいと思いますけど、全体で20人不足ということですから、九曜塾はすごく私もいいと思っていますから、もっと人数が増えるとさらにいいじゃないかなと思っています。教育委員会で頑張っていたきたいなと思います。

## 委員長

九曜塾も含めてということで、内容に関しては望ましい教育環境のところでご意見いただいたと思いますので、まず将来像に関してということではいかがでしょうか。良ければまだご発言いただいていない委員の皆さんの方から発言をいただければと思いますけども。どうゆうご意見でも構いませんが、思考力とか問題解決力とか判断力とかそういうのもありますし、新しい未来に挑戦して行動していく力みたいなのもひょっとしたら九戸の子供たちには必要なのかもしれませんし、あるいはご自身で子供たちの様子をご覧になっていただきながら特にこういう力が弱いじゃないかなというところがあるのであれば、将来的には課題として挙げなければならないところになると思います。自分のことをしっかりと見つめなおすことが出来るがとか、あるいは他人に対して自分の考えをしっかりと述べる事が出来るかとか、じっくりと考えることが出来るかとかそういうところもありますし、前回の委員会で私の方からもお話をしたところでもありますが、21世紀これからの社会で求められるということに関連して、社会像といのが不確実性というのがあります。どれか一つが正解であると言い切れない状況になっているということで、自分なりに考える。しかも根拠を持って考えて、他者と表現しながら照らし合わせてコミュニケーション意思疎通を図っていくということが、非常に求められる時代でもあると思います。それからあとは多様性と呼ばれる時代状況ですね。いろんな価値観の違いであるとか、物の見方とらえ方考え方違いというのが人間にはあるのだから、それを自分以外の他に様々な考えがあるというのを踏まえた行動できるかどうか。自己中心的では困ると言うことがありますし、自分と意見が合わないから相手否定するのではなくて、そういう考えも成り立つのかということも広く認めていくことの出来る力というののもとても大切だと思います。だけれども僕はあなたと違ってこう思う、あなたの違う意見もわかるけれどもという、他を認めながら自分の主張が出来るようなそういう力が無いといじめの問題も、先ほど〇〇委員さんからご意見いただきましたが、価値が絶対的になりすぎる、一つの事しか視野が向いていない、それからそれと全否定というような価値観が子供の中にあるとすると、自分と合わないだから否定みたいなとらえ方をされると社会そのものが成り立たなくなってしまうので、将来のことを九戸村の子供たちは視野を広く持って生きていくことが出来るような子供たちとして育ていけるかどうかということも問われるところがあるだろうと思います。問題がなければそれで構いませんし、視野の広さ多面的多角的に物事をとらえることの出来るそういう力が学校教育というか、本当に九戸の子供たちに養われているのかどうか、あるいはコミュニケーションという話もありました。自分の思いを相手に伝える、だけれども先ほどと関連する相手がどう思っているかということも踏まえないと自分の思いは伝えられません。当然相手が自分の相手の思いとずれているということもあるということです。そのずれがあるということも前提にしてどう修正していくのか。ずれるから相手は自分のことを理解してくれない、だからだめだというわけではなくて、いやいや人間同士だから理解し合えないのがむしろ普通ではないのか。そのためにどうゆう努力をしていけばいいのか、どんな伝え方工夫をして

いけば相手に自分の思いが伝わるだろうか、そういうふうな観点でもって表現力を磨いていくことがとても大切だろうと思います。コミュニケーションは単なる伝達であって相手に伝えるだけではなくて意思疎通ですから、相手がどうそれを受け止めていてそこにずれがあるとするならばそれを自分なりにどう解釈し直して、もう一度表現し直すかとか、それを何度もやり取りをしながら相手の気持ちくみ取ることが出来るようになり、それに応じて自分の思いも伝えることが出来るようになりながら意思を通じ合っていく、思いを合致させていく。手間暇かかりますけどそう単純ではないと思います。そういう部分の力としてどうだろうか、一つ言ったらば通じているはずだと終わっていたりすると、通じなかった時の落差でもって人間関係がぎくしゃくする。そういう部分もあるだろうと思いますし、いろんな場面を考えていただきながら九戸の子供たち将来を担い、大人社会の現実も踏まえるとこうゆう力がぜひともいものがあれば、そういうところをご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。

## 委員

国際化もいろいろあってですね、時代の進みが早いですよね。そういう中で、学校教育でも大切になってきているのではないだろうかなと思ってですね、自分のしっかりとした意見を子供には持ってもらいたいなという思いがございます。そして自分の考え方を相手にうまく伝えられるといいますか、そういう子供になってほしいなと。また同時に相手の意見ですか、考え方も素直に受け入れられる、そういう子供になってほしいなと思います。何と言いますか、心豊かな人間とゆうか、そういう子供になって将来大人になった時に、国際化が進んできますとやはり外国に出ていく、あるいは外国からいろんな方が来る、いつでも臨機応変に対応できる社会になっていくのではないだろうかと思えます。そうしますとそう言ったことが求められるといいますし、私はこのことで書いておきましたけれども、もう一つの点を書きましたのは、小中高での学校生活で切磋琢磨し国際社会人となってほしいとアンケートに書きましたけども、小学校の段階あるいは中学校の段階、高校の段階でも学校生活の中で多くの子供たちが競争、そういう社会になってきたわけですから、そういう集団行動の中でいろんな経験を積んでいく。それを学習面においてもそうですし、あるいは部活動においても当たるとおもいます。そういう中で、子供たちがどんどん経験を積んで成長していく、そういうことが将来国際的にも活躍できるようになってくるじゃないかなと思います。あるいはそういうことが、人間といいますか、求める時代に入ってきているじゃないかなと個人的には思っています。したがって、そうした国際的にも活躍できる人間になってほしいなという希望的なのがあります。どうじにまた九戸に住んで、ずっと生きていても、そこでそのようなことを養っていれば、豊かな心で生きていくじゃないだろうかと思っております。そういう事でちょっとアンケートには書きましたけれども、大胆に言えば国際化が進んでおりますから、やはり外国にも行けるような人間になってほしいなと、またそういう時代に入ってきているじゃないだろうかと思えますので、将来像というか期待したいと思えます。

## 委員長

グローバル社会ということの中には一つ国際社会がということは念頭にあるわけですから、それが小学校の英語や外国語活動、これまでも国際教育というものが進められておりますから、九戸村はもちろんのことですが、ただ九戸村だけにとどまるものではなくて、九戸村を中心

にしながら国際的視野を持つことが出来るという力はとても大切な事だというご意見をいただきました。そのあたりは主体性と関わったり、コミュニケーション表現力と関わったり心豊かなということが集団の中で多様な人たちと関わる事が出来る力というのも当然入ってきていると思います。関連して他の委員さん、いかがでしょうか。国際的な視野を持たなければいずれいろんな国の方と交流するわけですから、活躍できるというのは可能になると思いますがいかがでしょうか。国際的な視野として、学校の教育課程はどんどん進んでいるところもありますけど、もちろん視野も含めてということで、子供たちに能力をつけさせるということで主体性、表現力、あるいは人として多様な集団の中で、そしてそれが国際的な視野の広い人に育つということに、中学生になると進学、高校になってくるとは思いますけども中学校として意識しているところありますでしょうか。

## 委員

単純に外国ということで英語教育について話すと、中学校でもほとんどの英語の授業を英語でしなさいと言うことで、すべてはできていないですけれども、小中高と日本語が使われない英語の授業が行われるというふうな形でより英語に親しむという授業が進んできているという状況があります。中学校ではグレアムさんにご指導いただきながら、できるだけ生といますか英語に触れさせていただく機会をいただいておりますし、中学生が4名伊保内高校から2名が毎年アイルランドに派遣させていただいて、今年も二年生の四人がアイルランドで研修をさせていただくという機会もいただいております。小学校では今五年生、六年生が外国語活動ということで、ご協力をいただきながら外国語活動の授業が行われていますし、今後も小学校では英語の授業が広がっていくということになっております。合せて話し合いですとか、自分の意見を述べるということが重視されてきておりますので、授業の中でも意識的に取り組みを進めていかなければならないところだと思いますが、まだまだ課題も抱えているところでもあります。

## 委員長

ありがとうございます。かなり学校現場では海外で使えるということ意識しているということですね。会話で使えない英語というのが今日はかなり改善されつつある。そうゆう意味では〇〇委員さんからもご指摘をいただきましたけれども、国際的感覚を磨くことが出来る子供たちというところでの対応がなされつつあるという。この部分では九戸村の子どもたちでもいずれ村に残る、出るなどいろいろなケースが考えられますけれども、これからの国際社会という現実を踏まえると、国際感覚を磨くという力もとても大事ではないかなと思います。〇〇委員さんそれから〇〇委員さんからの意見を言えば、そうゆう所を九戸の子供たちにも求める必要があるのかなと。もちろん国際的感覚を磨く中に語学も当然入ってくると思いますね。視野の広さ、他国を認めていく力というのも生まれてくるのではないかなと思います。関連するところでもいいですし、いかがでしょうか。あと10分くらいのところで皆さんの意見は集約を終えたいな、一応区切りをつけたいなと思っております。もしどうしてもということがあれば、またアンケートの取り方もありますし、そのあとで精査していく形になりますので、今日で子供たちに将来像は確定ということにはならないと思いますので、ただご意見をいただいた部分はなるべく反映させるという方

向性を考えていきたいなと思います。いかがでしょうか。それでは〇〇委員さんお願いします。

## 委員

半ばちょっと雑談的に話をしたいと思いますが、九戸村の子供たちの将来像という熟語を入れるようなイメージで考えると、ちょっと言えない部分があるというか、さっきの皆さんのおはなしの中で地域を知る、地域に誇りを持てるようにするというのは非常に大事だと思いますし、あと健康であること、命を大切にすることも非常に大切だなと思います。それから皆さんの話の中で社会に出て通用する力をつけるというお話もありました。もしかしたらみなさんから批判をいただくかもしれませんが、違う場面の会合なんかでたまに話に出てくることで、若い人に、柵をかたづけてくれと言ったら、途中でゴミがあって、それを飛び越えて行って柵を片付けて、命令した人は帰りには拾ってくるかなと思ったら再び飛び越えて帰ってきた。「そのゴミ見えなかったの」と言ったら「だって棒をかたづけろといわれました。」と答えた。それだと社会に出て通用する力をつけるという観点から言うと、少し物足りないところがあるのかなと。本当に若い人たちだけの話じゃないですが、またそこは本来会社の教育というものがあるはずなのでやればいいのかと思います。将来像と言う部分ではいえませんが、ぜひ頑張れる子ども達、目標に向かって努力できる子ども達を育てていかなければならないのかなと思います。あととりとめのない話ですが、非常に面白い話がありまして、野球のイチローに「どうしたら一流になれるのですか」と言う質問に対して、聡明な方ですからなんて答えたかと言うと、「僕が一流かどうかは分かりません。明るく素直なところです。」と言う答えで、明るく素直ということ、「あとぼくは天才と言う人もいますが、ぼくは誰よりも早く球場に入り誰よりも遅くまで練習しています。」という答えで、その目標に向かって頑張っていくということが大事かなと思います。と言うことで、これらを組み合わせて目標を考えていかなければならないのかなと思いました。あともう一つここに集まっている皆さんもそうですが、自分の仕事以外に何が出来るだろうかと、子ども達が勉強以外に何が出来るだろうか、社会に良く関わっていけるだろうか、と言うようなところを考えていく必要があるのかなと思いました。それらを考えたら、私の子育ては大失敗だったなと思いますながら反省をしております。

## 委員長

子ども達が自分で主体的に判断してという力と繋がる場所があると思いますし、それを分かりやすく目標に向かって自分で努力できるという子ども。目標設定も自主的に主体的に子ども達が設定できればいいですし、それに向かって自分自身で行動できる力と言うのも大切だと思うので、それらを目標に向かって続けられる子どもとっておくと、一つの子ども達の将来像に繋がるのかなと思います。あとは社会にと言うことで、どうゆう形で自分が勉強していることとか仕事以外と言う話もありましたけれども、何が出来るかと言うことは、ある意味どうゆう部分で自分の能力を幅広く発揮できるということに繋がるかと思いますが、そのあたりのところ社会に向かって活動活躍できる子ども達というイメージも出てくるかなと思います。関連するところでも構いませんし、〇〇委員さんのご意見から触発されてということで、さらに九戸の子ども達にこんなと言うところがあればご意見いただければと思いますが、〇〇委員さんお願いします。

## 委員

九戸村の子ども達の将来像という空欄を全部今オリジナルで設定しなければならないということを感じるところもありますけど、各小学校に校歌と一緒に教育目標と言うものが掲げてありますけれども、全部を見比べると言葉は違ってもほとんど目指すところは同じ様なものが掲げてあると思います。うっすら覚えているところで、伊保内小学校で言うと進んで学ぶ子、よく働く子、健康でたくましい子そうゆうのは設立当初に設定されたと思いますが、今後の将来像を考えるとところにおいても通じるところがあると思います。私が言いたいところは、それと何か九戸村という所のオリジナルと加えたところを加えるぐらいのところ、設定すればそんなに重荷に感じないのかなと思っていたところを今発言させていただきました。

## 委員長

それぞれに村内5つの小学校でも学校教育目標と言うのが設定されているわけですが、そこにも今回われわれが検討すべきような目標概念が示されているようです。ちなみにと言うことで伊保内小学校さんでは進んで学ぶ、それから思いやりがある、よく働く、自分で考える、あとは土台として健康でたくましい子。俗に言う生きる力が網羅されているというところ、そうゆう状況が在ります。同じようなことが進んで学習するとか、よく考えるとか、思いやりがあるとかと言うことが他の4つ小学校さんでも掲げられています。その共通項をとりあえずココに出していく、先ほどご意見いただいたものを加えていく、ということで一つの子どもの将来像と言う物は見えてくるものはある。そういうものを逆に村外の皆さん方にご提示しながら、コレってその通りだよねと言うように納得できる物であれば、それは一つとしての九戸村として目指す子ども像としては共通にくくれる物なのかなと言うことで、ご意見をいただいたかなと思っております。そのあたりのところも是非ですね、せっかく各小学校で学校教育目標を掲げているという事の意味は、やはり自分の学校において、子ども達の現状現実を踏まえればこんな目標が大切だろうということを前提に設定されているはずで、それを踏まえると今そのまま生きているかということは実際問題検討の余地はありますけれども、改めて共通で出されている部分に関しては九戸の子ども達にとってはやはり求められる姿でもあると思いますので、そのところは是非参考にさせていただきながら将来像の空欄の部分埋める際のキーワードとしては生かして生きたいかなと思います。ちょっと時間も来ていますので、もし最後どうしてもと言う方がおられましたら発言させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。一応ココで時間を切りますけども、それではですね、先ほど最後に〇〇委員さんからいただいたことを尊重しながら、それプラスαでふるさと郷土を大切に子どもというのはぜひあげていく必要があるのかなと思います。実は古里と言うことに関していうと、他の学校教育目標の小学校のレベルでいうと、明示されているわけではないです。九戸中学校でも明示されているわけでは在りませんので、そういうところを一つ土台にしてということで、考えさせていただければなと思っております。またご意見があれば次回の委員会でもご意見いただければと思います。それからそれにかかるものとして、自他の命を大切に子ども達と言うところも検討対象としてあげていきたいと思っております。他の小学校の教育目標で言えば、健康で明るくたくましく元気な子どもとなりますけれども、命ストレートで挙げているわけではありませぬので、自他の命を大切に、自分も他者の命も尊重できるようなそうゆう子どもであって欲しい。それからあとは、国際的な感覚を備えた子どもというのも、古里を

大事にしつつ一方では国際的視野も持つ見通しの広さ、よくグローバルな部分とローカルな部分を合わせてグローバルなんて言い方をわれわれもしたりしますが、その部分での子ども達、国際的な視野、国際的な感覚を備えた子どもと言うのも是非取り上げる必要があるのかなと委員の皆さんの意見からはまとめさせていただきたいと思います。それからあとは自主的主体的な子どもと言うことで、目標に向かって自分で努力できる子ども。これら自主性主体性、自分で判断思考できる子どもと言うところに一つまとめられるかなと思います。基本的な生活習慣はある意味健康でたくましい子とか、それぞれ自分なりにしっかりと自分の生き方を確立できる子ども達、学校の教育目標の方に掲げられている所も在りますし、そこでちょっと調整をさせていただければと思います。あえて挙げるということは今回しなくても大丈夫かなと思います。後は先ほど学校教育目標で挙げられたような自主的に学ぶとか、思いやりがあるとか、よく働くとかこうゆう自主的行動できる子と言うことで繋がるようにしますし、自分で考えるそのあたりのところはちょっと若干整理をする必要があるのかなと思います。自分で判断し行動するというまとめ方にした方が分かりやすいのかなと思いますので、以上のような内容でもってまずキーワード化を事務局のほうにお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。何かもれていてこれだけはどうしてもという物があればご意見頂戴いただければと思いますがよろしいですか。今言ったところ議事録の方でまとめていただいていると思いますけども、事務局のほうで整備をして次回の委員会の際にはもう一度一覧表のような形で出していただければと思います事務局よろしいでしょうか。それではお願いします。ここで一旦一番上の議題は終了とさせていただきたいと思います。将来像についてはと言うことで、キーワードを事務局のほうにまとめていただいたものを、次回に整理をしていきたいと思います。それで2番目の柱と言うことで、今ご意見を頂戴しました子どもの将来像に実現に向けて、どのような学習環境が望ましいだろうか、とりわけ適正規模についてということで、皆様のご意見をいただきたいと思います。それで今日の資料によりますと、資料3-3、資料3-4にかかわりますので、コレはどうでしょうか、事務局のほうでもご提案、簡単な説明をいただいてもよろしいですか。

#### 事務局

資料3-3につきましては、第2回検討委員会のお話しました、公立小学校公立中学校の適正規模・適正配置というのから抜粋した物でございます。1番には学校規模の適正化に関する基本的な考え方について、それは手引きの中の2ページの所です。太字で書いてある部分は事務局で重点的な所かなと思っています。基本的な視点の所4行目児童生徒の集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要ということ、その下の一定の規模の児童生徒集団が確保される事や、経験年数、専門性、男女比等について、バランスのとれた教職員集団が配置されている事が望ましいところになります。以下二つ目にもこのような事がありますし、下のほうの地域コミュニティの核としての性格への配慮とゆうところで、やはり小学校、中学校とゆうのは地域のコミュニティの核としての性格を有する、あわせて学校教育は地域の未来の担い手である子供たちを育む営みでもあります。それと併せまして3-4につきましては、学校規模の適正化、基本的な視点(1)学級数に関する視点について、学級数が少ないことによる学校運営上の課題として14項目、複式学級での課題が5項目、職員数が少なくなること

による学校運営上の課題が 9 項目、次ページ学校運営上の課題が児童生徒に与える影響として 9 項目、次に学校規模の適正化、併せて考慮すべき視点 (2) 学級の児童生徒数及び学校全体の児童生徒数として、小規模校のメリットが 9 項目、学級における児童生徒数が極端に少ない場合に現れる顕著な課題として 8 項目ほどあります。次 3 ページ学校規模によるメリットとデメリットとして、学習面、生活面、学校運営面・財政面にわけてそれぞれメリットとデメリットにわけて記載してあります。最後に資料にはありませんが、法令から見た適正規模について説明させていただきたいと思います、学校教育法施行規則においては小学校の学級数は 12 学級以上、18 学級以下を標準とするとしておりますが、ただし、地域においてその数に満たないときはその限りではないと記載されております。学級数におきまして極少規模校から過大規模校まで 6 つに分類されます、村内の小学校はどうなっているかとゆうところで伊保内小学校においては小規模校、戸田小学校、長興寺小学校、江刺家小学校は過少規模校、山根小学校は極小規模校となっています。これは第 1 回資料の 5 に掲載してあります以上で説明を終わります。

#### 委員長

取り急ぎですねご説明いただきました。なかなか資料を追うのが大変かもしれませんが、第 1 回のこの検討委員会のところで、対応いただいた資料 No.6 番のところに、文科省が一昨年に提起した、適正規模適正配置に関する手引きと言うのがございます。そちらの放火から今回資料の 3-3 の方については一部抜粋をいただいているというところです。それらを基にまとめていただいたのが資料 3-4 のところにも繋がってくるわけです。そして最後には第 1 回のとときの資料の No.5 ですね。1 枚ものになっていますが、九戸の実態はどうであるかと言うことに関しての分類が出ております。表記上は一応適正規模が小学校の場合は 12 学級以上 18 学級以下。つまり 1 学年で 2 クラスないし 3 クラスと言うことが望ましい。つまりクラス替えが出来る、上限数を 40 で設定している。定員ですね。そうゆう部分があってということで、さてそれが九戸村の場合はどうなるだろうか、中学校もおおむね同じような基準を設定しておりますが、小規模校それから適正規模校と言うことで言えば、過小規模、小規模に当たる学校が九戸村の小学校のほぼ大半。ほぼ全部です。その中にカテゴライズされてしまう。つまりそうゆう意味では適正規模校というものの実現をもし考えていくなれば、九戸村の現状から言えば小学校厳しい状態です。ただその際のメリットデメリットをどの観点で判断するかが資料 3-4 のところの最後から 2 枚目と言いますか、下の番号で 3 ページ、4 ページですね。学校規模等による教育効果と言うことでメリットデメリットが出ています。このものを参照いただきながら九戸村の学校の適正規模をどう考えればいいだろうかというところを各委員の皆さんにはお考えを持ってご意見をいただければと言うところになるわけです。学習面と生活面、それぞれ 3 ページと 4 ページですね、小規模校と言うことが文科省の手引きから言えば九戸村の場合厳しい状況にあります。一方で小規模工でのメリットと言うもの見られる。それは何よりも数が少ないゆえに教師一人一人が子ども一人一人に目が届きやすい。活動機会においても設定しやすいということは、いわゆる活躍の場が増えるということですね。それからリーダー経験を豊かにする事が可能になっている。人間関係的にも適切に深まる、そうゆう可能性がある。それから人数が少ないがゆえに縦交流が増えますから、縦交流の期待もでてくるだろうと言うことがいえるかと思えます。ただ大規模校になると今度は人数が増えますので、多様なものの考え方に触れることが出来る、そこで自分を磨くことも出来る。そ

れからとりわけ中学校では部活動を組織しやすくなる、あるいは集団行動が必要な合唱その他等々の活動においては展開しやすくなる。それから一つは先生の数的な問題がそこに連動してくるかと思いますが、人数が少ないと中学校の場合特にそうなりますが、適切な教科専門の先生を配置できない、そういうものが大規模校であれば十分にすべての教員を配置できると同時に、それを踏まえたところの学習指導がより有効に展開しやすくなる。それからグループ学習共同学習スタイルをとりやすくなる。人数が少ないとグループ化するのにも限界があるのでその裏返しだろうと思います。それから各学校の数が多い場合に教職員の数も一定程度確保されるという形になりますので、学校全体の取り組みに柔軟性が保証される。そういうものが学校運営財政のところの一番下にあります。そういうものが考えられるということです。そうやってきますと、委員の皆さん方にお考えいただきたいのはこの九戸村の小規模、過小規模が多いという現実を踏まえながら、最終的には先のところの1のところでも議論いただいた、子ども達の将来像を実現する上でどうゆうような規模が望ましいだろうか、そうゆうところと上手くクロス、加味しながらやっぱり今の子ども達にある程度の規模が必要なのかな、あるいは小規模校でいいと考えるかというところのご意見をまずいただければと思います。ふるさとを大切にすることの大切さ、社会に出て使える社会性、それから自主的判断力をそなえ目標に向かって努力できる、国際的な感覚視野を磨くという多面的な側面から入りますので、そうゆうのを実現するにはどうしたらいいのか、出来ないわけではないけどよりもし可能であるならばある程度人数が多い方が実現しやすくなるというふうにも多面的にはあるだろうとは思いますが、そのあたりを将来像というものを一定程度視野に置きながら学校規模におけるメリットデメリットを今日お配りいただいた資料の3-4の3ページ4ページも御覧いただきながら、さて適正規模がどうでしょうか、適正と言うよりは望ましい規模をどう捉えるかと考えていただいた方がいいかと思います。国では適正規模と言う風な言い方をして12~18学級としていますけども、地域の実態を無視したりすることは出来ませんので柔軟に検討いただきたいと、ただその際の判断基準は今日の資料の3-3にあるように、やはり地域の皆さん方の意見を尊重しながらよりよいものを目指す。ただ過去を振り返ることではなくて、これからの子ども達というのが、われわれが最初議論した子ども達の将来像に関わっていますので、子ども達が将来大人になっていき新しい社会を担うという観点を、一応念頭に置いていただきながらそれを踏まえるとこんな学校が望ましいかなという意味でご意見をいただければと思います。まず資料的なものはよろしいでしょうか。それで小規模校のよさもちろんあると思いますし、それも踏まえつつどうゆうような学校の規模として望ましいかなと皆さんがお考えいただいているのか、現に小規模、過小規模といわれる現実を踏まえてどうなのか、それはそれぞれ小学校からと言うことで代表の委員の皆さんも入っておられると思いますし、自分達の地域そういうものを念頭において考えていただければと思います。ご意見をいただければと思います。ここもそれぞれ私の方から一方的な質問もしませんので、意見のある委員の皆さんからご発言いただければと思います。いかがでしょうか。〇〇委員いかがでしょうか。何かお二人で話し合っていました、雑談的なことでも何かありましたら。

## 委員

うちの娘がもう飽きちゃったと言って、一クラスしかないし。別に仲の悪い子もいないですし、一緒にスポ小とか習い事をしている子もいますが、もう飽きちゃったっていわれました。



## 委員

子どもたちって勝ったり負けたりっていう気持ちを持つことは凄く大事だと思います。少なければやっぱり負けちゃった、コレも負けちゃった、勉強も負けちゃった、走るのも負けちゃったって終わって行く子どもが多く出てくると思います。だから〇〇さんに勉強を負けたけども〇〇さんには勉強勝ったから良いよっていう気持ちを持つ子ども達も必要だと思います。少ない中で女の子と徒競走をします。〇〇さんに負けました。女の子に負けたっていう気持ちを持つことも大事ですが、男の子の友達がいっぱいいれば、女の子と勝負する事が無いので、男の子に負けたけどまずいいのかなっていう気持ちを持つこともすごく大事だとおもうので、やっぱり人数が居た方がいいのかなと思います。じっさい長興寺小学校の6年生は3人です。男の子1人と女の子2人。仲すごくいいです。見ていると良いなと思いますけど、徒競走をして3人で走ればいつも家の子が負けます。だからと言って話している訳ではないですけども、お互いにコレは負けていいけれども、コレは勝っているなという気持ちを持つためにはある程度の人数が居た方がいいのかなと。九戸村ではもう2クラス3クラスと言うのはもう絶対できないと思いますけれども、同じクラス15人だけだけれども結局は村の小学校が一つなったとしても、同じメンバーにしかならないと思いますけどある程度人数がいれば、これが15人じゃなく20人、もしくは25人いるクラスが出来れば、そういう気持ちを持つことになるのかなと凄く思います。

## 委員長

なかなか貴重な意見じゃないかなと思って伺っておりました。6年生が3人しか居ないとなるともう少し子どもの数が増えないと、と言うことは確かにその通りだと思います。

## 委員

3人と親も3人しか居ません。上手くまとまりやすいことはいいことですけど。

## 委員長

あまりにも少なすぎると、というのは当然ありますので〇〇委員さんいかがでしょうか。

## 委員

小学校が村内に5つ、その中で複式がない学校は伊保内くらいですか。

## 委員長

伊保内だけですかね。後は必ず複式が入っていますね。

## 委員

複式も仕方ないのかなと思いますけど、小学校の授業参観なんかに行くと生徒が多いクラスに行くと凄く活気があります。3人くらい、5人くらいのクラスに行く、複式でも7、8人のところに行くとなんか活気が無い。戸田小学校でも13人の6年生だけれども、そこに行くと何となく活気がある。今の話じゃないけど競争心が出ているように感じる。やっぱりある程度の生徒が、人数

が居ないと競争心と言うのは大事だから。九戸村もそろそろガッツリ考えた方が良さそうな気がするな。

委員

九戸中も3つあったものが1つになって小学校も一つになっちゃうと、というのはあります。同じメンバーで同じ学年でなっていくのかなと言うのはちょっとどうだろうと言うのはありますけれども。

委員

質問ですが、小学校は今1クラス40人ですか。

委員長

法律上は40人で、小学校1年生は35人で。

委員

41人ですと2クラスになるという。

委員長

41だと法律上はですね2クラス。ただその自治体の判断によって変わってきたりすることはあります。

委員

もし35、37、38というようなときも、2つにするということはできますか。

事務局

国の制度上は41になった時点で2クラスにするということで、41なら20人と21人なります。岩手県は35人学級、1年生から4年生については35人学級で36人になると分けられると。18、18とか。現在中学校の1年生2年生は35人学級で、小学校1年生から4年生と中学校1年生で36人になると18、18と分けられることになっています。ただそのうえに例えば小学校5年生6年生が、小学校4年生の時に36が18、18で分けられていたのが、小学校5年生になるとその制度が活用できないとなる。ただその時に国の少人数指導加配ということで、加配を協議する制度があります。あと5年生については一緒にして勉強も分けることも自由です、今まで通り学級を分けることも自由ですという制度を岩手県では取り入れています。次の時にその資料は提出したいと思います。

委員長

口頭で説明いただいても何のことかわからないと思いますから。

委員

といいますのは、今の年度もありますけど 28 年度が、前回の最初の資料を見ても 3 人でやっているところもあります。今年度だけがギリギリいわゆる国でいうところの適正規模に収まりますが、来年以降は全村子供全部集めても来年度以降はすでに小規模校という扱いになっちゃうのかなと資料を見ながら思いましたが、このような話が出る事が遅いくらいだったのかなと。

委員

見て思うのが下の学年の子供達はいいなと思います。上のお兄ちゃんを見られるというか。上の子っていうのはずっと上まで行って下しか見ないから、確かに思いやりのある子になるかもしれないけども、下しか見てないので、下の学年が上の学年とずっといけばすごく育っていくなと俺は感じました。

委員長

そうゆうところ複式の良さにもなっている訳ですね。

委員

良さというか上のほうから見ればダメなところで、出来れば単独の学年の方が理想でしょうね。

委員長

〇〇委員さんのところは、もう少し次回のところではデータを出しながら実際にそうなるかどうかちょっと微妙なところあります。

委員

私が先に言えることではないですけども、今の九戸村の話は、来年度 29 年度の小学校 1 年生が 33 人村内にいるということで、35 人学級であっても 2 クラスにならないというお話だと思いますが、それ以降もまた比較をしているので、その学年だけがちょっと少ないということになった時に、ちょっと中学校の例で話をするとさいわい中学校はまだ 2 学級にできると思いますが、仮にそうゆう状況になった時に、なにが困るかという体育祭に困ると思います、2 クラスの学年は良いだろうけれども、ある学年だけ 33 人だから 1 クラスだと。どうするというときに学校裁量の範囲で、加配ただかなくても 2 クラスにするということは制度上はやっています。やれると約束はできないですけども、そうゆうふうにしてやはり最初からお話しさせていただいているように、2 クラスに分かれて競い合ったりする良さを維持したいということで、他の地区の学校でも若干人数が達しなくても学校の中で分けるということできることにはなっています。ですからここも来年度だけが 33 だから何とかする方法がないわけではないけれどもできるかどうかわからないです。

委員長

柔軟に対応できることもあるとお考えいただいてもいいかと思います。結構ある程度の数がないと子供たちの教育環境自体が充実していかないという実態はあります。それぞれの小学校から大学院まで入っておられますけどそのあたりいかがですかね。現時点で 5 校、伊保内、長興寺、

戸田の委員さんからは意見をいただきましたが、〇〇委員さんなにか関わるところのことでの意見でいいですから。

委員

今皆様のご意見を聞いていて自分はどうかって聞かれると思って聞いていたところもあります。おっしゃる通り子供たちにとっては競争できるということもあるし、違う見方をすれば競争とかではなくて、いろんなことを学べる。数が多いということからですね、くるのかなって思って聞いていました。自分が友達の良い所を見て、そうゆうふうになりたいとか、頑張っって自分も越えたいという目標を持って、それに向かって頑張るといような一つの目標にもなり得るでしょうし、頑張ったことによってもし自分がもしかしたら周りの他の誰かよりも秀でることが出来るという経験とか、成功体験とかですね、ということにつながってくるとして皆さんのところを聞かせていただいていたいました。そうゆう経験が少なくなってしまうのかなって。

委員長

ちなみに山根小学校の実態を踏まえてということで〇〇委員さんいかがですか。

委員

適正規模ということでは3ページ4ページにありますけどデメリットがかなり多いかなと思いましたが。人数は多い方がいいのかなって思っています。

委員長

九戸村では小学校の数、人数としては少ないかなと思います。より一層多くの子供たちとかかわりながら学習をして生活をしていく環境の方がふさわしいというご意見でした。江刺家小学校ということではいかがでしょうか。

委員

PTAの人数が少ないと常に誰かが役員になっていなきゃいけないので、負担がかなり大きくて大変だなと思っています。

委員長

たしかに子供たちが少ないとPTAの皆さんの数も制約がありますよね。強制的に半ば役員をせざるを得ない。その良さもあるだろうと思いますが、負担感も一緒にあるのかなと親の立場、保護者の立場からのご意見をいただきました。それとそろそろ8時15分、時間が近づいておりますので、あとどうしてもこれに関して適正規模の部分でご意見、ここで発言したいという委員の方おられればと思いますが、もしおられれば挙手をお願いします。いかがですか。〇〇委員いかがですか。なんか一言でもいかがですか。

委員

〇〇さんと同じですけど、私たちのころは中学校で4クラスあって今の少人数で実際経験して

いないからわからないのですけども、やっぱり勉強だけじゃなくてスポ少とかでもいい意味でライバルがいるっていうのは絶対にいいことだと感じます。その中でも体育祭なりうちの息子世代にも、そこはどうしても戦って勝ち負けを味わってほしいなというのがありますし、国際的感覚とか将来像を考えた時にいいのかなとは思っています。

#### 委員長

やはりある程度の数がないと子供たちの触れ合う機会というのも、多くの多様な子供たちと、ということが、学習面ではもちろんですけども確かにスポーツ大会を含めてということがあるだろうと思います。それでは学習環境の適正規模についてということで、一応それぞれいろんな思いはあろうかと思えますけども、やはり小学校の実態というものを踏まえると、ある程度の数がないと非常に厳しいのではないかというご意見としてまとめさせていただきたいと思えます。それでも現状5つの小学校のそのままの形態でもって本当に子供たちの将来像を実現できるかということに関しては大きく制約が出てしまう。もう少し子供たちの学習環境については人数が多い環境の中で切磋琢磨し合える環境をとるところのご意見が多かったかというかたちでまとめさせていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。まずそのあたりのところ事務局の方からまとめていただくということで、アンケートの今後の動き等々がありますので、まず一応2本目の柱もこれで終了とさせていただきたいと思えます。本日求められる協議についてはこれを持ちましていったんまとめとさせていただきます。

#### 【閉会】

#### 委員長

それでは次回は日程的に2月に開催ということで、本日と同じ時間帯ということで始めさせていただきます。あとは次回のところでアンケートも入りますし、今日検討した皆さんのご意見をまとめた部分を事務局の方からまとめたものを確認していただきたいと思えます。それでは以上で終了させていただきます。どうもありがとうございました。